

YOKOSHIN NEWS

令和2年6月23日
横浜信用金庫

《よこしん》景気動向調査結果について

—2020年4～6月期実績、2020年7～9月期予想—

横浜信用金庫（理事長 大前 茂）では、定例（四半期）の「景気動向調査」を実施いたしました。調査結果の概要は以下のとおりです。

【業況判断DI】

業況判断DI(全業種総合)はリーマンショック期を越え大幅に悪化、来期は改善するも低調を見込む

- 今期（2020年4～6月期）の全業種総合業況判断DIは、前期比47.2ポイント低下の-53.2と大幅に悪化した。来期は、今期比8.7ポイント上昇の-44.5を見込んでいる。
- 製造業の今期業況判断DIは、前期比48.7ポイント低下の-54.2となった。来期は、今期比8.8ポイント上昇の-45.4を見込んでいる。
- 非製造業の今期業況判断DIは、前期比46.4ポイント低下の-52.7となった。来期は、今期比8.6ポイント上昇の-44.1を見込んでいる。

【特別調査】「新型コロナウイルスの感染拡大による中小企業への影響について」

- 自社の事業活動に対する新型コロナウイルスによる影響 「影響を受けている」(80.3%)
- 新型コロナウイルスの感染拡大を受けての対応状況 「何らかの対応を行っている」(74.1%)
- 今期（4～6月）の売上と例年の4～6月との比較 「売上げが減少した」(56.4%)
「ほぼ変化なし（10%未満の増減）」(36.1%)
- 新型コロナ対応の資金繰り支援制度及び政府による支援策の利用
 - ・資金繰り支援制度「利用した・申請中・利用する可能性あり」(74.7%)
 - ・政府による支援策「利用した・申請中・利用する可能性あり」(70.5%)
- 新型コロナウイルスの影響が出る以前の現預金保有の最も少ない時期の保有状況と2020年中の資金繰り状況
 - ・コロナウイルス以前の現預金の保有程度 「売上げの1～3か月分」(42.0%)
 - ・2020年中の資金繰り 「やや不安がある」(49.8%)

<調査概要>

調査対象：当金庫取引先（法人・個人事業者）775先 有効回答数：763先

調査方法：営業店職員による聞き取り調査 調査時期：令和2年6月上旬

※その他詳細につきましては、「《よこしん》HP⇒法人のお客さま⇒[景気動向調査](#)」をご覧ください。

* 本件に関するお問い合わせ先 * 総合企画部：汐見、石井 電話：045-680-6912



横浜信用金庫